

認知症対応型通所リハビリテーション施設における 物理的環境の改善と職員の意識に関する研究

キーワード：認知症、環境改善、意識

石井研究室

半沢良太

アクションリサーチ、通所リハビリテーション

1. 研究の背景・目的

高齢化の進展と共に、2012年の認知症患者数は462万人、有病率は15%だったが、2025年には5人に1人になると推計されている。今後、施設から在宅へという流れの中においては、通所施設やリハビリテーション施設の役割は増々高まっていくことが予想される。

一般的に介護職員は、認知症患者にとって物理的環境の在り方と重要性を意識することはほとんどない。

本研究では、身近にある物理的環境を抽出し、その在り方を議論しながら考え、環境改善を実施することで物理的な環境に対する意識と関わりの変化を期待するものである。環境改善に向けての実践的な取り組みを通して職員の意識の変化を捉え、また環境改善の成果を確認しながらさらに次の改善に繋げる為にアクションリサーチの手法を用い、環境改善を行うことを目的とする。

2. 調査対象と調査方法

調査対象は、宮城県仙台市宮城野区M診療所の職員とする。M診療所は、S造3階建てで1階は診療所になっており、不眠や抑うつなど心の悩み一般の専門診療に加え、精神科デイケアや喫茶店「わっかフェ」、小規模作業所「縁むすび」、さらに高齢者の介護事業所を備えた医療と介護の多機能型複合施設となっている。2階は通所リハビリテーションとカフェスペースになっており、通いの方がその人「と」何ができるのかという視点を大切にしながらレクリエーションやマッサージ、リハビリテーション等を通して、自然な笑顔や意欲を呼び覚ますケアを行っている。3階がショートステイになっており、ご本人やご家族のニーズに合わせて利用していただけるケア付きの宿泊サービスになっている。一人一人の想いに寄り添いながら、普段の何気ない関わりを大切に、快適で生き生きとした毎日を過ごして頂けるよう心がけている。今回調査対象エリアは、2階デイ・ケアとする。

調査は、介護において空間や物理的な環境の重要性を十分に意識・認識しているか調査する必要がある。本調査では、環境づくりプロジェクト関係職員と一般職員を対象として調査を実施した。M施設の職員に対して基本属性・環境・家具・エレベーターホール空間・居場所・環境づくりの項目について記述回答を求めるアンケート調査を行った。2019年11月に実施し、最終的に環境づくりプロジェクト関係職員6名、一般職員16名から回答を得て、合計22名から事例のエピソードや回答を収

表1 プロジェクト（調査）の経過

日程	調査・活動内容
2018	10月17日 【調査1】施設環境の現状に対する意識調査（職員・学生）
	10月24日 打ち合わせ（調査結果報告）
	11月19日 抽出結果をもとに学生ディスカッション（学内）
	12月3日 模型作成のためのディスカッション（学内）
	12月10日 模型作成開始（学内）
2019	2月27日 打ち合わせ（模型を使い職員とディスカッション）
	4月15日 打ち合わせ（自動販売機の置き場について）
	5月10日 打ち合わせ（エレベーターホールの使われ方について）
	5月20日 打ち合わせ（家具の配置・種類について）
	6月10日 打ち合わせ（事例から空間の提案）
	6月18日 打ち合わせ（エレベーターホール空間利用調査の実施方法等について）
	7月8日 打ち合わせ（家具の色について）
	7月10日 打ち合わせ（家具の提案）
	7月15日 【調査2】エレベーターホール空間利用実態調査
	10月21日 打ち合わせ（エレベーターホール空間利用調査の結果について）
	10月30日 打ち合わせ（施設のエレベーターホール空間の利用状況について）
	11月7日 打ち合わせ（エレベーター前の壁面について）
	11月15日 【調査3】施設環境に対する意識変化アンケート調査（職員）
	11月29日 アンケート回収

集した（表3）。

3. 調査概要

これまで3つの調査と打ち合わせを実施してきた（表1）。施設環境に対する意識調査・抽出結果をもとにディスカッション、エレベーターホール空間利用率調査、3. 模型を用いた環境改善の検討である。施設環境に対する意識調査では、ポストイットにM施設に対する改善点や違和感を感じる点を抽出を行った（図1）。抽出結果をもとにディスカッションでは、現段階ですぐに改善できる点（ソフト面）と長期間で改善が必要な点（ハード面）に振り分けを行った（表2）。エレベーターホール空間利用率調査では、エレベーターホール空間の利用率和介助が必要か不要か（図2）、椅子に座る姿勢、を明らかにする為に行った（図3）。模型を用いた環境改善の検討では、実際に模型を使用し職員の方と学生で改善点の抽出を深める話し合いと意識の共有化を行った。

4. 調査結果

一般職員と環境づくりプロジェクト関係職員をそれぞれ3つのカテゴリーごとに意識の比較を行った。「環境全般の評価」「家具・エレベーターホール空間の評価」「居場所・環境づくりの評価」について以下、それぞれの評価について記す。

4-1 施設内の環境全般の評価

【生活する側・ケアする側の視点で現在の環境が充実している】が一般職員は8人（50%）、プロジェクト以降の関係職員では2人（36%）、以前の関係職員では介護面では5人（83%）、生活面では3人（50%）ということが分かった。

4-2 施設内の家具・エレベーターホール空間の評価

【エレベーターホール空間で何か意識的に行っていることがある】が一般職員は1人（6%）に対して、プロジェクト以降の関係職員は4人（67%）。

4-3 施設内の居場所・環境づくりの評価

【利用者一人一人の居場所探しを設けることが重要である】が一般職員は7人（44%）に対して、プロジェクト以降の関係職員では6人（100%）以前の関係職員では居場所探しを考えたことがある方が5人（83%）。

5. まとめ

一般職員と環境づくりプロジェクト関係職員から見た利用者にとって重要な環境に対する意識の違いを明らかにすることができた。今後の課題としては、最も改善すべきエレベーターホール空間の利用率の向上のため、M施設での利用者へのヒアリング調査、壁面の模様替え等、継続的により詳細な分析と考察が必要となる。

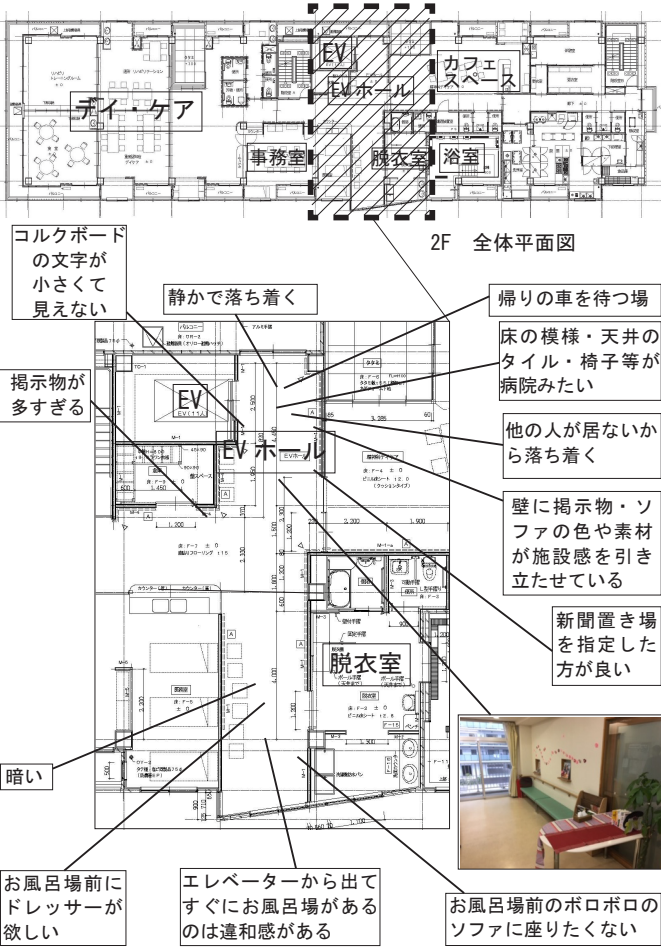


図1 意識調査によるEVホール空間・浴室前に関する意見（学生・職員）

表2 改善の必要性が感じられると見えた意見

ソフト面	ハード面
・キッチンの整理 ・カーテンの取り外し ・和室の整理 ・ホワイトボードの移動 ・新聞置き場の確保 ・食器の収納 ・家具配置検討 ・本の選定、置き方変更 ・雑誌ラック・和室ベッドの移動 ・掲示物の目的、位置の明確化=季節感を感じる物 ・風呂場を使うものの場所移動	・洗面台と鏡の変更 ・床の模様変更 ・天井・壁の変更 ・制御盤を隠す ・部屋配置変更 ・手摺り ・ユニット廊下のドア変更 ・カーテンの検討(素材、デザイン等) ・自動ドアから引き戸or引き戸への変更 ・部屋を仕切るドアの必要性 ・机の検討(素材、デザイン等) ・ベランダ床の素材 ・壁、床の傷・汚れ改善 ・自動販売機移動 ・蛍光灯カバー取り付け ・床に座れる場所確保 ・ベランダ活用の検討 ・トイレマークのデザイン変更 ・窓(一部曇りガラス、ルーバー) ・ソファの検討(形、柄、素材) ・玄関マットの検討(色、素材等)

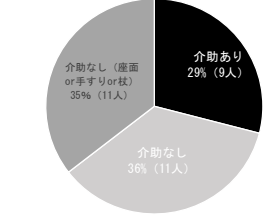


図2 利用者の介助の有無

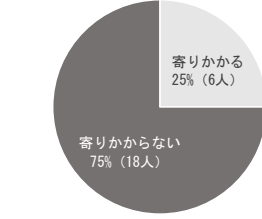


図3 EVホール前に置かれた椅子の利用時姿勢

表3 物理的環境に対する意識に関する調査結果

(プロジェクト参加職員 N=6・一般職員 N=16)

質問		関係職員 人数		一般職員 人数		割合	
Before(プロジェクトをする前の考え)							
環境全般							
これまで、物理的な環境(空間、居場所、家具配置など)のあり方や、生活環境づくりについて考えたことはあった	4	67%					
生活のための環境づくりをする上で大切にしていることはあった	3	50%					
介護のための環境づくりをする上で大切にしていることはあった	5	83%					
家具・エレベーターホール空間							
ケアをしている中においてエレベーター前の家具(イス・テーブル)配置が重要であると考えたことはある	5	83%					
居場所づくり							
利用者の居場所探し(づくり)を積極的に考えたことはあった	5	83%					
居場所探し(づくり)をする上で最も大切にしていたことはあった	5	83%					
After(プロジェクトをした後の考え)							
環境全般							
生活する側(利用者)の視点から、現在の施設内の環境は充実していると思う	2	36%	8	50%			
ケアをする側の視点から、現在の施設内の環境は充実していると思う	3	50%	7	44%			
現在、ケアをする上で物理的環境(空間・居場所づくり)のあり方やつくり方で心がけていることはある	5	83%	11	69%			
物理的環境(空間・建築・居場所)はケアをするにあたり重要だと思う	6	100%	16	100%			
ケアの一要素として空間(物的環境やその要素)が果たしている役割はあると感じる	6	100%	13	81%			
家具・エレベーターホール空間							
施設内の家具(イス・テーブル)の種類や配置はケアにおいて重要だと思う	5	83%	15	94%			
現在使用中の家具の種類やその配置は適切だと思う	5	83%	11	69%			
イスやテーブルの設置をして以降の現在、エレベーターホール空間が効果的に利用されていると思う	6	100%	14	87%			
エレベーターホール空間の環境づくりに関して何か意識的に行っていることはある	4	67%	1	6%			
居場所づくり							
利用者にとっての「居場所」を設えることは重要だと思う	6	100%	16	100%			
物理的な環境(空間や家具の配置、色など)の変化で利用者の意識や生活に影響があると思う	6	100%	14	87%			
利用者一人一人の居場所探し(づくり)に力を入れている	6	100%	7	44%			
建物の空間や居場所のあり方が「この人にとって大きな意味を持っている」と感じた場面やケース(エピソード)がある	2	33%	6	37%			
総計							
	6	100%	16	100%			